

令和2年度「土砂災害防止に関する絵画・作文」作文中学生の部 優秀賞(事務次官賞)

「 協力し助け合おう 」

奈良県 大和郡山市立郡山西中学校 3年 藤森 美花

「無事でありますように。」と、激しく降る雨音を聞きながら、母と祈った。

半年前、母が小学校の頃からの大親友が、仕事の都合で引っ越しをした。引っ越しした場所は、土砂災害警戒区域に指定されている土地だった。親友から連絡を受けた時、母は心配な表情をしていた。

そして、不安に思っていた日がきてしまった。各地で激しい雨が降り、数年に1度程度しか発生しないような短時間の大雨が観測されたことを意味する、記録的短時間大雨情報がテレビで流れ、「避難指示」という言葉が何度となく流れた。

「大丈夫かな。」と母は、何度もスマートフォンの画面を見ながら言っていた。私の住んでいる地域でも時々、テレビの音が聞こえにくくなるほど、雨音が強くなった。

母のスマートフォンが鳴った。母の親友からだった。かなりの大雨が予想され、その日は、小さい子供と2人だったこともあり、地域の消防団と隣人から、「早め早めの避難」を勧められ、「避難準備」の指示などが出される前から準備し、避難情報に従い、慌てることなく落ち着いて、スムーズに避難していたとのことだった。これからの雨の状態でどうなるか不安はあったが、安全な場所に避難し、無事である報告に、母と私はホッとした。

感謝なことに、土砂災害は起こらなかった。ただ、土砂災害の恐ろしいのは、雨の降った後、雨が全く降っていない状況でも発生することだ。土の中の水分量が多くなり、斜面が耐えられなくなっている可能性があるからだ。「怖い」としか、言葉が出てこない。

避難した人達は、怖い思いをしながら過ごしたばかりなのに、まだ完全には安心できないのが辛いと思った。でも、今回、地域の消防団と隣人に感謝しかなかった。

地域の消防団は、気象や避難情報を聞き、地域の山や川の状況を把握し、住民の命を守るために訓練し、また消防団と住民が協力して声かけをするなど、助け合っていることに胸が熱くなった。

水害や土砂災害時の避難情報で、避難勧告を廃止し、避難指示に一本化されることになった。このことも、住民の取るべき行動を5段階で伝える警戒レベルが、危険な場所にいる人に避難を求める「避難勧告」と、さらに強く避難を促す「避難指示」が、レベル4に混在していて、災害の危険が迫った時に、意味の違いが理解されていないことがあり、とまどったりして、適切な避難につながっていないなどから決定されたのだから、わかりやすくして、命を守るために考えられたことに感謝だ。

災害が起こるかもしれない時、冷静に判断して、私は動けるのだろうか。不安に襲われ、普段通りの行動をするのは、難しいことだろう。しかし、一目で見て、避難情報を把握できる工夫はありがたいだろう。言葉だけでなく、色でも判断できるようになっていることにも、「素晴らしい」としか言いようがない。そして、地域の消防団が、安全に避難できるように導いてくれる。なんと心強いことか。

母の親友も、「引っ越しして日も浅く、顔を合わせることもほとんどないのに、安全のために声かけをし、導いてくれたことに安心感があって、命はもちろん、心も救われたわ。」と嬉しそうに話していたことを母から聞いた。私も嬉しくなった。

恐怖の中、人の温もりというか、優しさに触れることは、安心を得ることができる素晴らしい力だと思った。災害が起こる前にできる行動、災害が起こってしまった時に取るべき行動、災害が起こらないようにできる対策などすべてのことに、命と心を守るため、皆で協力し、助け合っていかなければならないと心から思った。

今、私にできることを考え、誰かのために力になれるように、頑張りたいと思う。